

## 別添資料

みなさまへ

このメールは、私(弦月同窓会 高21回)田村敬一郎が、主にeメールアドレスをいただいた宮崎大宮高校同窓会の少数の限られた方を中心に、bccでお送りしています。高森暁夫作品を展示する2つの展覧会の開催が決定いたしましたので、ご連絡申し上げます。いずれも、延岡市ご在住の高森暁夫君のご親族が寄贈された高森暁夫作品を収蔵された、関西の2つの美術館、兵庫県立の兵庫陶芸美術館と、滋賀県立陶芸の森陶芸館です。それぞれの開催概要は、次の通りです。

### 兵庫陶芸美術館

開催日時:2026年6月27日(土)~9月6日(日) (展示棟 展示室5)

月曜日休館 ただし7月20日(月・祝)は開館し、7月21日(火)は休館

展覧会名:3 Artists to know 小野寺玄/吉川周而/アキオ・タカモリ

高森暁夫作品は、2025年新規収蔵の21点が展示される予定です。

以下は、兵庫陶芸美術館のパンフレットより引用します。

「近年当館にご寄贈いただいた小野寺玄(1934-2016)、吉川周而(1947-2020)、

アキオ・タカモリ(1950-2017)というベテラン作家の作品をご紹介します。

北海道釧路市出身の小野寺は、東京の文化学院で陶芸を始め、陶芸家の北大路魯山人(1883-1959)に師事。1962年に神奈川県大磯で独立しました。土の研究に熱心で、1972年、珠洲古陶に心打たれ、燻し焼き(炭化焼成)を追求しました。その後、白から黒へ繊細なグラデーションをつけた《炭化練上》で新境地を拓き、独自の作風を築きました。

大阪府大阪市生まれの吉川は、京都市立芸術大学で陶芸を学び、陶器メーカー勤務を経て、1977年に兵庫県三田市で独立。1980年頃から立体作品を発表し始めます。1990年代にかけては、色鮮やかな低火度釉や金彩を駆使した装飾的な作品を手掛けますが、2000年代に入ると一転、黒陶のオブジェに転向。国内外の公募展で受賞を重ね、注目を集めました。

宮崎県延岡市に生まれたタカモリは、文化の香り高い家庭で育ちましたが、戦後まもない日本はまだ貧しく、鮮烈に残る幼少期から青年期までの記憶が、色濃く作品に現れていきます。1974年からアメリカを拠点とし、絵画的な要素の強い独自の陶芸作品をメインに、絵画やドローイング、版画なども手掛け、欧米を中心に高い評価を受けました。

彼らの作品には、近年、あまり光が当てられていませんでしたが、是非とも今、知っていただきたい優れた作家たちばかりです。三人三様のユニークな陶芸作品を通して、日本の現代陶芸の奥行きを感じ取っていただければ幸いです。」

同時開催展について:「こども学芸員とつくる夏のこども美術館」

所在地: 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4

TEL 079-597-3961(代表)

<https://www.mcart.jp>

陶芸の森 陶芸館(陶芸美術館)

開催日時:2026年6月26日(金)~7月5日(日)

月曜日休館

展覧会名:アキオ・タカモリ展

2025年新規収蔵の高森暁夫作品14点の他に、この美術館旧蔵の高森作品2点や、高森暁夫をアメリカに導いた Ken Ferguson や、金子潤(Jun Kaneko)の作品も展示される予定です。

同時開催展について:特別企画展「炎との対話から 私の自然釉―神山清子展」(神山清子は、NHK連続テレビ小説「スカーレット」のモデルのようです)

所在地: 〒529-1804 滋賀県甲賀市信楽町勅旨 2188-7

TEL 0748-83-0909

<https://www.sccp.jp/>

陶芸の森陶芸館は、開催日が短期間ですのでご注意ください。

みなさまに関西在住のご友人等で、ご興味を持たれそうな方々がいらっしゃいましたら、お知らせいただければ幸甚です。

高森暁夫作品の、両館の新規収蔵品リスト(作品写真を含む)を添付いたします(以前に収蔵が決定した際にお送りしたものと同じです)。

以上、ご連絡申し上げます。